

軍事・歴史・政治・経済研究紙

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

民主主義とは不完全システム

民族精神を蔑ろにした日本の教育制度

日本の教育とその制度に見られる大きな特徴は、「民族精神」を蔑ろにしているという点である。日本人が日本人であると言ふ事を自覚できない、同一性意識(identity) / 人格が自己として一貫すること)が欠如している事である。

戦前教育の特徴は、天孫降臨をテーマにした神話が、公然と日本史の中で語られていた。国史教育において、記紀(日本書紀神代紀一書による)の神話で、瓊瓊杵尊が高皇産靈尊と天照大神の命を受けて、高天原(天つ神がいたという天上の国)から日向国の高千穂に天降ったこと教育方針に据えていたのである。

しかし当時としても、科学的歴史観を標榜する歴史家からは反撥の声が上がり始めていた。近代ヨーロッパの科学的歴史学が既に輸入されていたので、こうした反撥の声はごく当然であり、尤も「歴史研究」はその性質上、大きく掛け離れているのである。

民族精神を高揚させる為には、当然歴史教育が必要となり、その教育としての方法論は、歴史研究と全く違うものである。そして歴史教育における教育の原点にあるものは、喩えそれが、科学的根拠を否定する、「神話的」な荒唐無稽なものでも差し支えないのである。

国民の教育における最大課題は、「民族性を確立することこそが、近代に起こった民族国家の統一性の原理であり、この原理なくして、民族国家はあり得ず、また民主主義の根本精神すら満たす事ができないものになってしまうのである。

人間の創造において平等はあり得ない人間は生まれながらにして平等なのである。総ての人間は、

神によって平等に創造されたのだらうか。人間の環境を見回していても、「平等」と思える箇所は何処にも見当たらない。

キリスト教的な世界観の中には「予定説」なるものがある。この「予定説」によれば、かつての日本キリスト者の総帥と称された内村鑑三(教会的キリスト教)に対して無教会主義を唱えた)でさえも解答に窮した、「救われる者」と「救われない者」の不等等が、この中に説かれていた。

これによると、不平等と差別は、天地創造以前に為されたのである。予定説)からすれば明白な事実であり、神(創造主)の自由な意志によって「決定」された人間は生まれながらにして平等ではない。実に不平等きわまりなく、差別の中に生まれ落ちる。

ところがアメリカの独立に際し、アメリカ合衆国第3代大統領ジェファソンが起草したアメリカ独立宣言に、端的に頭を打たれているアメリカ・デモクラシーは、ジョン・ロックの自然法思想に立脚して、「自由」「平等」「幸福」の追求を天賦の人権として主張したが、現実社会には不平等と差別は内包する根本的な矛盾として、歴然と存在する。

一方に平等を掲げ、また一方には不平等があり差別がある。この二分法的差別は、尖鋭な矛盾としてデモクラシー標榜下に発見する事が出来る。

この先鋭な矛盾は、アメリカ・デモクラシーの対立物であるマルキシズムの中にも見出す事が出来る。マルクス理論の中に掲げられている平等理論は、還元すれば非差別であり、一種の差別を顕わす概念において、二分法的差別が用いられ、この差別の最たるものが支配階級と被支配階級の存在である。

り、資本家対労働者の関係式を齎している。この二分法的差別は前者が搾取する方と定義され、後者が搾取される方と定義されている。これがそもそもその闘争原理を生み出し、要するに「予定説」で言い述べれば、前者が「救われた者」であり、後者が「救われない者」となる。

マルクスは、世界史を振り返って、それは階級闘争の歴史である

と云う。階級層層は、つまり「予定説」であるから。物質的恩恵が与えられる者と、そうでないものは階級的構造をもつて、必然的な掟の上に対立しなければならぬのである。

つまり資本主義社会における階級闘争は、支配階級である資本家と、被支配階級である労働者が「闘争」という形を用いて双方が敵対するのである。

これこそ、人間が生まれながらにして平等ではない証拠ではないか。

民主主義は完成されたシステム

多くの日本人は民主主義を完成されたシステム、人類が考えた世界最良の政治システムと誤解している節が非常に強い。

だが、この政治システムは、まだ完成してないし、暗中模索を繰り返しながら進化の過程にあると言っても過言でない。

民主主義は、近世に至って市民革命を起した欧米諸国に勃興し、アメリカに渡って、アメリカ人の確固たる信念の元、資本主義とデモクラシーと近代法が三位一体となつて開花したシステムである。

しかしこれは、今日に至っても、ような農耕民族の決定的な違いがあるのである。

宗教戦争に絡む世界新秩序 ヨーロッパ世界での三つの宗教観は、自分達だけの文力バ世界一優れ、最も秀でていて、自分達だけが正しい真理を持つ

と、固く信じている人達に、よって信者構成がなされてきているのである。また、三宗教の聖地であるエルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地でもあり、特にユダヤ教を信仰する人々にとっては、「嘆きの壁」に象徴される亡国と離散の場所でもあるのだ。更にキリスト教を信仰する

また完成を見ていないのである。これはアメリカ史を見れば明白なことであり、発展段階であることは疑う余地がない。そしてデモクラシーばかりでなく、資本主義も、近代法もそれぞれが完成された状態ではない。これをよく理解することが、資本主義を理解する上で大切なキーワードとなる。

日本人は周知のように、島国育ちであり、ユーラシア大陸やヨーロッパ大陸の民族と違って、自分の生活の実践の中で、日本民族自らがこうした経験を通じて、「制度」を作り出すと言ふ経験に非常に乏しい。

イスラエルが齎した宗教戦争 (その三十六) イオンド大学教授 曾川和翁

戦争と混乱の元凶 一神教世界は人類に混乱を齎し、その縮図が戦争として現れた。ユダヤ教徒やイスラム教徒やキリスト教徒にすれば、自分の信仰する宗教が一番認めないと言ふ事までがその教義として記されている。そしてこの教義こそ、一方において領土問題に絡み、また他方に於いて、商業的な経済問題にも絡んでいるのである。要するに、利益に絡み、これこそが人間の生活に基盤を作り上げるものであるから、なおさら重大な問題になってくるのである。

中世では、インドから死の世界は大イスラムが関係し、ビザンチン世界、ヨーロッパ世界と、この三つで世界が各々分割されていた。この三つの世界は、イスラム教、ギリシャ正教、ローマ・カトリックを信ずる。ここに、国などは存在せず、どの宗教を信仰しているかで領土が決定されていたのである。ここに遊牧民と、日本人の



イスラエル兵のイスラム教徒への逮捕と拷問

また完成を見ていないのである。これはアメリカ史を見れば明白なことであり、発展段階であることは疑う余地がない。そしてデモクラシーばかりでなく、資本主義も、近代法もそれぞれが完成された状態ではない。これをよく理解することが、資本主義を理解する上で大切なキーワードとなる。

日本人は周知のように、島国育ちであり、ユーラシア大陸やヨーロッパ大陸の民族と違って、自分の生活の実践の中で、日本民族自らがこうした経験を通じて、「制度」を作り出すと言ふ経験に非常に乏しい。

人々にとっては、イエスの復活の場所でもあり、そしてイスラム教を信仰する人々にとつては、マホメットと天子に導かれて、この地から天国と地獄に旅立つた場所でもあった。

この三つの宗教の起源は、実は同じところであり、三宗教とも、預言者と言ふ存在が大きな重要性を包含しているのである。預言とは、「神の言葉を預かり、これを他人に知らせる人」のことであり、また、「新しい世界観を示す人」でもある。特に旧約聖書では、前八〜七世紀におけるイスラエルの宗教的指導者の事で、コランではアダム、アブラハム、モーセ、イエスを預言者とし、ムハンマドはその最後の人物とされる。

そしてユダヤ教は「旧約聖書」への信仰を現すもので、キリスト教の母体となつた事は周知の通りである。この流れの図式から分かる事は、モーセに導かれた人々はユダヤ教徒であり、イエスによって導かれた人々がキリスト教徒なのである。また、マホメットによって導かれた人々は、イスラム教徒になるのであつて、これらの三宗教は元が同じであるから、本質的には違いがないはずであるのだが、考え方や行動様式の違ひによって、三つの宗教は各々異なる道を進む事になり、この「違い」という点において、争点があり、これがいわゆる近親憎悪的なものになり、三者間では激しく火花を散らせている。

歴史を工学的に科学する

〒802-0985

北九州市小倉南区志井6丁目11-13

(尚道館ビル2F)

九州科学技術研究所

093(962)7802 FAX093(961)8224

Eメール: science@daitouryu.com



九州科学技術研究所

Kyushu technology Institute

九州科学技術研究所 URL

http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/

大東流霊的食養道HP

www.daitouryu.com/syokuyou/

癒しの杜の会HP

www.daitouryu.com/iyashi/